

JACLaP WIRE No.87(2005年10月5日発行)

本メールは日本臨床検査専門医会の電子メール新聞 JACLaP WIRE No.87 です。

===== 目次 =====

【事務局からお知らせ】

会員動向(2005年9月30日現在数682名, 専門医508名)

【WHO トピックス】 太り過ぎと肥満によって心臓病と脳卒中増加をWHOが警告

<Press September 2005 WHO-189>

【M.A.N(Medical Academy News) 9月1日号】

===== JACLaP WIRE =====

【事務局からのお知らせ】

会員動向(2005年9月30日現在数682名, 専門医508名)

新入会員

東條尚子 先生: 東京医科歯科大学医学部附属病院検査部

下沢達雄 先生: 東京大学医学部附属病院検査部

【所属・その他変更】

佐藤仁哉 先生: 旧 陸上自衛隊中部方面衛生隊準備隊

新 自衛隊中央病院研究検査部病理課

倉辻忠俊 先生: 旧 国立国際医療センター臨床検査部

新 国立成育医療センター研究所 所長

平尾良雄 先生: 旧 山野美容芸術短期大学美容福祉学科

新 ひらお内科クリニック

千葉仁志 先生: 旧 北海道大学病院検査部 副部長

新 北海道大学病院検査部 部長

退会会員

竹村 譲 先生: 防衛医大検査部

【訃報】

佐々木匡秀 先生: 山口県赤十字血液センター 9月23日 逝去

心よりご冥福をお祈り申し上げます。

【常任・全国幹事会開催のお知らせ】

平成17年度第四回常任幹事会・第三回全国幹事会を第52回臨床検査医学会総会・第45回日本臨床化学会年會に併せて、福岡国際会議場で開催いたしますのでお知らせいたします。

なお、今回は常任幹事会と全国幹事会を合同で開催いたします。常任幹事、全国幹事、監事の先生方は下記の時間にご参集をお願いいたします。

開催日時: 平成17年11月16日(水曜日)

常任・全国 幹事会: 14時~16時

会 場: 福岡国際会議場

4階 406号室

総会・講演会のお知らせ
今年度第2回目の総会・講演会が福岡で開催されます。第52回日本臨床検査医学会・第42回日本臨床化学会年会 連合大会に併せて行われます。
後ほど、日程が確定次第、出欠の確認の連絡をいたしますが、御参集をお願いいたします。

開催予定会場：福岡国際会議場・3階 第一会場
開催予定日時：総会 平成17年11月17日(木曜日) 午後3時～4時

講演会 平成17年11月17日(木曜日) 午後4時～5時
演題 「専門医制度について」
演者 日本医師会 常任理事
橋本 信也 先生

会費納入について
今年度もすでに10ヶ月が過ぎました。多くの会員の先生方からは既に会費の振り込みを頂いていますが、まだお支払い頂いていない先生もいらっしゃいます。
日本臨床検査専門医会の活発な活動は会員の会費によって支えられています。既に今まで未納の会員の方々には、再度振り込み用紙をお届けいたしました。会費の振り込みをよろしくお願いいたします。
会費の振り込み状況の確認は事務局まで E-mail あるいは FAX でお問い合わせください。

住所変更・所属変更に伴う事務局への通知について
最近、住所・所属の変更にもなつて定期刊行物、JACLaP WIRE などの電子メールの連絡が着かなくなる会員が多くなっています。
住所、所属の変更時および E-mail address の変更がありましたら必ず事務局までお知らせください。
所属、住所変更時は、できればホームページから会員登録票をダウンロードしてそれに記載し、FAX あるいは E-mail でご連絡ください。

===== JACLaP WIRE =====
【WHO トピックス】太り過ぎと肥満によって心臓病と脳卒中が増加している現状を WHO が警告
<Press September 2005 WHO-189>
BMI の増加は、心臓病、脳卒中、2 型糖尿病、慢性疾患などの主な危険因子であると WHO が警告した。世界で 10 億人が太り過ぎと推定されているが、この傾向が続けば、2015 年には 15 億人になる。太り過ぎと肥満は、心臓病の重要な危険因子でこれが原因で、毎年 1700 万人が死亡する。肥満は先進国だけに起こると考えられていたが、開発途上国・中進国でも劇的に増えている。その理由は、エネルギー量、脂肪、食塩、砂糖などの過剰摂取と運動不足による。バルバドス、エジプト、マルタ、メキシコ、南アフリカ、トルコ、アメリカ合衆国などでは、31 歳以上の女性の 75% 以上が太り過ぎである。アルゼンチン、ドイツ、ギリシャ、クウェート、ニュージーランド、サモア、イギリスなどの男性は、75% 以上が太り過ぎである。特に、西太平洋のナウルやトンガでは成人 10 人中 9 人が太り過ぎである。すぐに肥満対応を行わなければ、これらの開発途上国・中進国で慢性疾患が増加する。心臓病、脳卒中、2 型糖尿病の 80% とがんの 40% は、健康的な食事、定期的な運動、禁煙により予防できると報告している。
(獨協医科大学越谷病院臨床検査部 森 三樹雄)

検体検査管理加算の見直しを厚生省に要望

日本臨床衛生検査技師会（会長小崎繁昭氏）は8月16日、検体検査管理加算（Ⅰ）（Ⅱ）の見直しに関する要望書を厚生労働省に提出した。要望書では、検体検査領域での臨床検査技師の役割を適正に評価してもらうため、検体検査管理加算（Ⅰ）の増点、加算できる施設の基準を変更することを求めている。

厚生労働省に提出した見直し案では、測定から管理を含めた検体検査業務が臨床検査技師によって行われている実態、臨床検査専門医の少なさを考慮した結果、ドクターフィー的な要素を多く含むと解釈されている検体検査管理加算（Ⅱ）の点数を引き下げる代わりに、検体検査管理加算（Ⅰ）を現行の40点から100点に増やすことを要望している。

検体検査管理加算（Ⅰ）が算定できるための施設基準の見直しについては、現行の「院内検査に用いる検査機器及び試薬が受託業者から提供されていないこと」の受託業者の定義について、「ランチ契約を結ぶ登録民間検査所等をいう」とし、施設基準の解釈を明確化した。

検体検査管理加算（Ⅱ）の施設基準については、現行では「臨床検査を専門に担当する常勤の検査室勤務医師が1名以上いること」となっているが、要望書では医師の基準について、「日本臨床検査医学会が認定する認定臨床検査専門医会等の、検体検査の判断の補助を行うとともに、検体検査全般の管理・運営を専門に携わる者をいい、検査室に常勤する者で他の診療等を兼任する場合はこれに該当しない」としている。

生活習慣病を重点健診「集団的アプローチが大切に」

厚生労働省の「生活習慣病健診・保健指導のあり方に関する検討会」（座長：永井良三東京大学病院院長）は8月4日、2回目の会合を開き、効果的な健診・保健指導の考え方や、成果を上げている事例などについてヒアリングを行った。健診対象をメタボリックシンドロームに置き、個人ばかりでなく集団に対して指導を実施していく方向性が示された。

検討会で水嶋春期委員（国立保健医療科学院人材育成部長）は、予防医学の取り組み方針として、生活習慣病のハイリスク者を対象にしたものと、集団を対象とした対策が必要とした。

生活習慣病発症率は、ハイリスク者で高いが、患者数となると境界領域にある人たちが多くいる。例えば、冠動脈疾患の罹患者・死亡者の内訳をみると、総コレステロール値が正常高値にある人が4割を占め、境界領域が3割、ハイリスクが2割となる。

水嶋委員は、「集団全体に対して恩恵をもたらす予防医学も、集団を構成する個人への恩恵となると少ないが、多くの人々が、ほんの少しリスクを軽減することで、全体的には多大な恩恵をもたらす」とし、ハイリスク者対策と同時に、集団全体の分布をシフトさせることで、ハイリスク・境界領域・正常高値を減少させ、ひいては全体の罹患者数・死亡数を減らしていくことが重要とした。

「低侵襲治療・診断の実現へ」資本提携、共同開発をさらに推進

オリンパスとテルモは8月4日、2001年からの医療機器開発における包括的業務提携を強化することで合意し、それに伴う資本提携も行うことを決めた。これは、協業領域を拡大して日本発の画期的な医療機器開発を目指し、製造、知的財産、物流、ユーザー支援など、経営資源と市場優位性を相互に活用することで、グローバルでの競争力を向上させることを目的に行われる。今後、「低侵襲医療の実現」という共通

目的に向けて、循環器、癌、骨疾患（整形外科）領域で医療機器開発を推進するが、具体的な開発品目は現在検討中だ。なお、両社はこれまでに、共同開発で消化器内視鏡ガイドワイヤー等3製品を市場化している。

米国に試薬生産工場を新設

シスメックスは、米国における試薬の需要増加に対応するため、米国の試薬供給体制を強化する。工場建設費用として約13億円を投資し、現工場の約2倍の生産能力を有する試薬生産工場を新設、2007年4月の稼働を目指す。

検体検査の市場規模は全世界で260億ドルといわれ、米国市場は全体の40%以上を占める世界最大の市場。こうした中、シスメックスは2003年7月に米国でのさらなる事業拡大を目指し、ロシュ社を通じた間接販売から米州統括会社シスメックス・アメリカによる直接販売・サービス体制へ移行。

新工場はイリノイ州にあるシスメックス・アメリカに隣接して建設し、2007年4月に稼働する予定。現カルフォルニア工場は新工場稼働約1年後の2008年6月に閉鎖する。新工場は延べ床面積5000m²で生産能力は年70万箱。従業員数は約30名になる模様。

=====

JACLaP WIRE, No.87 (2005年10月5日発刊)

発行：日本臨床検査専門医会 [情報・出版委員会]

編集：JACLaP WIRE 編集室 編集主幹：満田年宏

TEL:045-787-2721・FAX:045-786-0392

本 WIRE の記事購読(配信・停止)・広告等に関するお問い合わせ先

uys-com@umin.ac.jp

日本臨床検査専門医会事務局(入会・退会)に関するお問い合わせ先

senmon-i@jaclp.org

日本臨床検査専門医会ホームページ

<http://www.jaclap.org/>

JACLaP WIRE バックナンバー

<http://www.jaclap.org/wire/index.html#TOP>

会員の皆様からの寄稿をお待ちしております！

メーリングリスト配信先の変更には

1. 氏名, 2. 現行登録アドレスと 3. 変更希望メールアドレスを添えて

uys-com@umin.ac.jp まで「配信先の変更希望」としてお送り下さい。
